

令和5年度第1回南砺市総合教育会議 議事録（要点記録）

1 日時	令和6年1月22日（月）午前10時00分～午前11時30分				
2 場所	南砺市役所庁 302会議室				
3 出席者	構成員	南 砺 市 長	田中 幹夫	教 育 長	松本 謙一
		南砺市立学校のあり方検討委員会委員長	松山 友之	南砺市立学校のあり方検討委員会副委員長	齋藤 史朗
		教育長職務代理者	林 紀孝	教育委員	中川 日登美
		教育委員	藤原 洋	教育委員	江川 由貴子
	事務局	総合政策部長	市川 孝弘	教育部長	笠井 学
		教育部次長生涯学習スポーツ課長	鶴野 幸男	教育総務課長	氏家 智伸
		こども課長	溝口 早苗	文化・世界遺産課長	上野 容男
		高校総体スキー推進室長	平本 光一	中央図書館長	保市 のり子
		教育総務課副参事	山本 佳和	教育総務課主幹	金谷 諭
		教育総務課主幹	佐藤 聖子	教育総務課副主幹	長澤 仁美

4 傍聴者 報道4社

5 会議の概要

（1）開会あいさつ（田中市長）

令和5年度第1回目となる南砺市総合教育会議を開催したところ、教育委員の皆さまには大変お忙しい中ご参集いただき心から感謝申し上げます。また日頃から南砺市の教育行政につきましてさまざまなご指導を賜っておりますことを重ねて厚く御礼申し上げます。

令和6年元旦16時過ぎに能登半島地震が起り、今まで体験したことのない揺れを感じました。市としては16時半頃に職員を参集し市内の被災状況の調査を行い、教育委員会の方では学校や保育園、各施設の調査・確認を行いました。これまでも全国各地で大きな被災はありましたが、まさかこの北陸で。と衝撃を受けました。改めて、令和6年能登半島地震においてお亡くなりになられた方々に哀悼の誠を捧げ、被災された方々には心からお見舞い申し上げたいと思います。南砺市としても、被災された方々への支援を今後どのように行っていくのか、各方面で手配をすすめてまいります。

2月7日からは第73回全国高等学校スキー大会が開催されます。雪の確保も心配されましたが、寒波も来るということで問題はないかと思っております。全国から集まった選手達に、「雪不足の中素晴らしいコースを作ってくれた。そして宿では温かいおもてなしをしてもらった。」と思ってもらえるよう、市が一体となって歓迎をし、立派にインターハイを終えたいと思っております。皆様のご協力をお願い致します。

本日は、先ほど提出いただきました「南砺市立学校のあり方に関する提言書」の内容についての説明、また中学校部活動の整理統合計画、地域移行時期について詳細な説明をさせていただき、公表する予定にしております。さらに、3月26日から始まる南砺市立図書館のデジタル化推進事業、南砺市子どもの権利条約に関するアクションプランの詳細についても説明させていただきます。各事項にかかる課題、進むべき方向について率直なご意見を賜り、南砺市教育振興基本計画の基本理念である「未来を切り開くなんとなりの人づくり」に繋げていきたいと思っておりますので、どう

ぞよろしくお願ひ申し上げます。

(2) 協議事項

① 南砺市立学校のあり方に関する提言書について

- 南砺市立学校のあり方検討委員会 委員長 一昨年の10月より議論を進め一つの方向性を見い出せた。小学校の機能を7地域に残すという共通認識と、中学校の統合については、地域学校統合検討委員会を設置し、地域の考えを大事にしながら進めていくということが明確になったことは大変意味があった。
- 南砺市立学校のあり方検討委員会 副委員長 様々な地域、年代、立場の委員が集まり様々な意見がある中で方向性を示せたのは大きな成果である。今後の学校のあり方に大きな影響を受ける世代が実状に応じて議論していくことになるが、より子ども達のためになるような学校改革を進めて欲しい。
- 教育委員会 学校統合検討委員会設置の年度が目安で示されているが、設置の前段階での準備等のために提言書の情報発信が肝要ではないか。
- 事務局 提言書に関する平野部の地域への説明会を予定している。丁寧に説明を行い、理解をいただきながら進めていく。

② 中学校部活動の拠点部活動と地域移行時期の公表について

- 教育委員会 学校部活動終了後に地域型クラブや独立型クラブへの移動は保護者が行うが、送迎までの時間の待機場所の確保や安全確認の責任のあり方は決まっているのか。
- 事務局 今の時点で決まっていない。教員の勤務時間も関係してくるため今後検討していく。
- 南砺市立学校のあり方検討委員会 委員長 拠点校型クラブ・地域型クラブ以外のクラブチームで活動し、中体連に登録・試合参加することは可能か。子ども達の活動の場を確保するという意味で確認したい。
- 事務局 大会に参加する際のスクールバス利用については拠点校型クラブ・地域型クラブに限るが、参加は可能。
- 教育委員会 中学校部活動について小学校段階からの積極的な競技団体への加入を推奨されているが、スポーツ少年団等各種団体へのサポートについて現時点でどの程度考えられているのか教えてほしい。
- 事務局 小学校から中学校への連携をスムーズに行うためにも、スポーツ少年団等に対する指導者謝礼や施設の学校開放や夜間開放等、見直しをしながら支援方法について各種団体と協議していく。
- 教育委員会 小中の連携は非常に大事。サポート体制について明確にご提示いただくことがスムーズな連携に繋がっていくと思われる。
- 事務局 拠点部活動と地域移行については、リーフレットをもって児童・保護者に公表する。また、細かい内容についての動画を作成し、指導者や市民の方々に広く周知するよう準備している。
- 教育委員会 部活動の地域移行については競技団体も方針に従って準備を始め

ている。支援をいただきながら体育協会、学校、各種団体が一体となって子どもの文化・スポーツの環境を維持して欲しい。

○事務局 スポーツ少年団本部でも協議を進めている。各団への説明等の要望もあるため、今回の公表を受けて1月末から2月にかけて詳細な説明を進めていく。

③ 南砺市立図書館デジタル化推進事業について

○教育委員 各交流センターにシステム端末が設置され、そこから予約することか。

○事務局 予約は個人のスマートフォンやパソコン等から可能。受取場所を交流センターに指定すると貸出処理をしてお届けする。

○教育委員 交流センターに通う方は年齢層が高い。センター職員に操作補助等の理解は得られているのか。

○事務局 昨年の春に協力体制の依頼をし、7地域から協力の旨返答をもらっている。協力可能のセンターから始めて徐々に広げていきたい。

○教育委員 本の巡回便が運行されるが図書館の職員が行うのか。

○事務局 市の公文書等を配送しているレター便と同様の形で配送のみを想定している。受ける側の学校や交流センターの職員に事務負担等がかからないようにしたい。

○教育委員 この巡回便を部活動の際の生徒の移動や、高齢者等の交通弱者の移動手段に利用してはどうか。もしくは、市営バスを本の運搬に利用してはどうか。

○市長 今回の巡回便を利用することは難しいが、公共交通政策の部分でいろいろ考えているところ。

○事務局 現在8つの地域を巡回する市営バスはない。人間だけでなく荷物も運ぶという話は少しずつ動いてきており、図書館の巡回便の開始によってまた様々な意見が出てくる。その都度必要性を検討しながら対応していきたい。

○市長 高齢者や運転免許証を返納した方はドアツードアのニーズが高い。AIオンデマンド交通も視野に入れ、交通網をうまく運用できる時に現在の案も見直していきたい。

今後、この事業によって南砺市民の本に触れる機会が増えると良い。デジタル本を読む人も多いが、実際の本を読み、読書記録として残していけたら目に見えて分かりやすいし、以前読んだ本を確認しながら借りることができると思われる。

○事務局 本の貸出記録はホームページからログインしたマイページ表示される。子どもは読書意欲を高めるため、読んだ本の表紙をシールにし、読書ノートに貼り、目に見える形で読書記録を残す。

④ 南砺市子どもの権利に関する施策について

○教 育 委 員 南砺市の子ども達が、周りのことも考えながら自分たちの意見を堂々とと言えるようになってきているのは今までの南砺市の教育活動の賜物だと感じる。ただ、居場所づくりは大切だが、大人のいない子どもだけの場は危険も伴うのではないか。安全に対する感覚も持ってほしいと感じた。また、子どもが主体的に活動していく上で、それを見守る大人の視点をどう教育していくか、どう啓発していくか等、大人に対しての働きかけも考えていく必要があるのではないか。

○事 務 局 子ども達が求めているのは「安全に過ごせて、色々な事を大人と相談しながら自分達が主体的に活動できる場所」であると考えている。自分にも相手にも権利があるということを学んできた子ども達の意識が南砺市の子ども達全体に広がってほしい。

大人の意識改革については子どもの権利委員の方々も口を揃えて唱えている。大人が正しく子どもの権利を理解することが土壌として必要であるので、周知啓発は第一番目の取り組みとして進めていく。

○市 長 大人の管理ではなく、子ども達が自分でルールを作って活動していくのはよいが、安全面での管理という部分はあるので管理のバランスについては考えなければならない。また、イベント等で子ども達と接すると子ども達は大人と接するという事を考えて行動していると感じる。大人の意識改革も情報発信をしながら進めていく必要がある。

(3) その他

○市 長 高校再編の意見聴取があり、平高校の全国公募と福野高校の国際科の充実について提言させていただいた。現在南砺市の小中学校はリッチモンドとマウントテーパーとの交流があり、その交流が発展していけばと思う。

○教 育 委 員 今年度よりこども課が総合政策部に移り、大変心配していたが、教育委員会や各種会議にはこども課長も参加され、連携も取れ安心している。これからもこれまで以上に南砺の子ども達のために手厚い支援をしてほしい。

○市 長 子どもの権利条約のアクションプランを策定するにあたり、こども真ん中で取り組んでいくための組織を作った。市長部局と教育委員会それぞれの視点でこども課を見て一緒になって取り組んでいくことを宣言させていただきます。

○事 務 局 南砺市の一番の課題は人口減少であり子ども達のこれからの成長にも大きく影響してくると思われる。市民へのアンケートの中では、学校への送迎等の公共交通の不安が大きいウェイトを占める。これまで交通と教育は違う分野と捉えられてきたが、いろんな分野と連携しながら、

広く総合的に議論していきたい。

○市長 南砺市では公共交通の不便さばかり取り上げられるが、免許を取って車があると、金沢市や富山市等コンパクトに色々行動できる。大学で都会に出て、都会は便利、故郷は不便という固定概念ができる前に交通施策について説明が必要であり、発信している。

○教育委員 南砺市立学校のあり方検討委員会の中でも子どもの意見も取り入れてほしいという声があった。今回子ども部会の会議内容から、しっかり意見を持っている子どもが多数いること、また他校の生徒と交流することを求めていることが分かった。子どもの意見をまとめて拾い上げていくことで、学校の統合や部活動改革も抵抗なく移行できるのではないか。

(3) 閉会あいさつ（教育長）

本日は本当に貴重なご意見をいただきありがとうございました。この会議は市長部局と教育委員会が一つとなって教育行政を進めていく上で、市長部局から支援いただき一つになる一番重要な機会だと思っております。学校のあり方、部活動、図書館、子どもの権利条約アクションプランをこの後5年間くらいかけて市民の皆さんにお知らせしながら実行に移していく、地に足の着いた施策にしていくきっかけが今回の会議だったと思っております。行政と各種団体が協力し、問題点があれば修正し、実行していく。それがこれから先重要なところだと引き締めているところです。学校のあり方検討委員の松山委員長、齋藤副委員長には今後も見守っていただきご意見をいただきたいですし、教育委員の皆様にも逐一ご意見をいただきながら教育行政が成り立つよう頑張っております。本日は本当にありがとうございました。